

第6章 ゆるキャラ

岩谷楓香

6.1 ゆるキャラの概要

6.1.1 ゆるキャラとは

「ゆるいキャラクター」の略である。地方自治体や町おこしイベントなどのご当地マスコットキャラクターを指すことが多い。緊張感が無く、のんびりとした雰囲気を漂わせていることからこう呼ばれるが、それが「かわいい、癒される」と人気を呼び、ブームを巻き起こしている。彦根市の「ひこにゃん」、奈良県の「せんとくん」などが有名である。その他、北海道の「夕張夫妻」、長崎県の「佐世保バーガーボーイ」など、自治体や地方団体の独自のセンスが光っているのが特徴だ。

ゆるキャラの集客力は芸能人並みで、イベントへの観客動員やPRなどに絶大な効果を出している。オリジナルグッズをはじめ、テーマソング、書籍などを発売するキャラクターも出始めた他、2009年3月には「ゆるキャラ音頭(歌・橋幸夫)」もリリースされるなど、ブームは過熱の一途をたどっている。また2008年10月には「ゆるキャラまつり in 彦根〜キグルミさみっと 2008」が開催されており、全国から46体のゆるキャラが集結した。2日間で46000人を動員した。

「ゆるキャラ」の提唱者であるみうらじゅんは、あるキャラクターが「ゆるキャラ」として認められるための条件として、以下の3条件を挙げている。

1. 郷土愛に満ち溢れた強いメッセージ性があること。
2. 立ち居振る舞いが不安定かつユニークであること。
3. 愛すべき、ゆるさ、を持ち合わせていること。

これに加えみうらは「原則として着ぐるみ化されていること」も条件に挙げている。また、郷土に由来する「いろんなものを盛り込みすぎて、説明されないと何かなんだか分からなくて笑いを誘うような」ところ、突っ込みどころの多く「とんちんかん」ところ、プロが「商品開発のことを考えて、リサーチしたり」せず、行政や市民といったキャラクター作りの素人が作るがゆえのゆるさ、なども指摘する。条件に「郷土愛」が含まれていることからわかるように、みうらの想定はあくまで「地方の村おこし・地域振興のためのキャラクター」である。

6.1.2 ゆるキャラグランプリについて

2010年から毎年開かれ、2017年は全国各地の自治体や企業などのゆるキャラ1418体がエントリーした。投票はメールアドレスを公式サイトで登録し、発行されたIDを使って1日1回できる。これまで優勝に輝いたのは、熊本県の「くまモン」、愛媛県の「バリィさん」

など、そうそうたる顔ぶれである。

ゆるキャラグランプリは3つのテーマを掲げて実施している

①「ゆるキャラで地域を元気に！」

②「ゆるキャラで会社を元気に！」

③「ゆるキャラで日本を元気に！」

①は自治体、商店街、地域の観光協会などのキャラクターの参加を、②は民間会社のキャラクターで、地域の活動に貢献しているまたは貢献したいキャラクターの参加を、③は日本をアピールするために頑張っているキャラクターの参加を促している。

2017年のゆるキャラグランプリの1位は千葉県のうなりくんで、2位は愛知県のちりゅっぴで、3位は大阪府のトライくんである。

6.2 紋別市のゆるキャラ

6.2.1 紋太（公認）

紋太は“アザラシ”である。寒さには強いが、お腹だけは冷えないように腹巻をつけている。頭に乗せているのはホタテ、流氷をイメージした自慢の半被で、イベントやお祭りを盛り上げている。紋太は紋別市の公式キャラクターであるため、紋別市にある様々な観光地でこのキャラクターを目にすることができる。

紋太のプロフィールは、誕生日は10月5日の53歳で、オホーツク海紋別沖の流氷に上出身である。性別は腹巻きの似合う“おじさん”で、身長173cm、体重123kg、スリーサイズはB230cm、W230cm、H230cmである。性格は、好奇心旺盛でお祭り好き、盛り上がるのが大好きで、特技は素潜りである。好きな食べ物はホタテやカニなど紋別産の海産物はとっても大好きで、嫌いな食べ物は甘いものと野菜で、健康に気をつけているうちに嫌いになった。口癖は、語尾に「～もん」がつくことで、好きな言葉は、「明日できることは、今日するな」である。

図 6-1 紋太



出所：Kawaii!! @Hokkaido

図 6-2 紋太を釣りあげる秋野



筆者撮影

6.2.2 モンベモン（公認）

モンベモンは紋別ヒーロー倶楽部の会長、谷川氏が考案したキャラクターである。2011 年 11 月 2 日に誕生した。モンベモンは、これから、モンベモンの生い立ちを紹介していく。

モンベモンのストーリーは次のようになっている。

はるか昔、この地（モンベツ）に住んでいたモンベツの守護獣は、鴻之舞の金を食べていた。ある日、海にはたくさんの美味しい食べ物があるのを発見し、海に食べ物を探しに行ったが金を食べていた体の重みで深みにはまり溺れてしまった。しかし、オホーツク海の冷たい水温のおかげで仮死状態となった守護獣は、深い海の中で静かに眠りについた。

2021 年、地球温暖化によりオホーツク海の海底深くに眠っていた守護獣が目覚めてしまった。ある日、流氷の隙間からモンベツを見た守護獣はモンベツの変わり様に驚き、この地で生活していたことを懐かしく思い、再び流氷に乗って現代の紋別に上陸する。古代生物学者・^{ほんもえひろし}本萌博士が紋別に伝わる古代文書を調べると、はるか昔にこの地をも守っていたと言われていた守護獣“モンベモン”とわかる。

いきなり現れたモンベモンに人々は大混乱した。北海道オホーツク科学省は、極秘裏に作っていた戦闘砕氷船“スーパーガリン”を発動させてしまう。温厚なモンベモンは逃げようとするが、余計に街を破壊させてしまうのだった。^{ほんもえひろし}本萌博士は古代書の中で、紋別の特産品をモンベモンに捧げ物として与えると静かに海に帰っていくことを解読。“スーパーガリン”に特産物や海産物を巨大な袋に詰めてぶら下げ、モンベモンが溺れない深さのところまで誘導し、捧げ物を流氷の上に置いた。そして、戦闘砕氷船“スーパーガリン”が“ガリンコ号”に変身し、捧げ物に喜ぶモンベモンが乗った流氷をゆっくり推し進め、遠いオホーツク海へ連れ帰っていった。今でも時折、海から顔を出しては皆の生活をやさしく見守っている。

6.2.3 砕氷船士ガリヤー（非公認）

砕氷船士ガリヤーは、紋別市の非公認キャラクターである。主にオホーツクタワーで会うことができる。砕氷船士ガリヤーは、様々なイベントにも参加していたり、新聞にも掲載されたりするなど、非公認ながらも積極的に活動を行っている。また、Twitter で情報発信をし、公式 HP をつくるなどといった、メディアを活用した宣伝も行っている。

砕氷船士ガリヤーは、「紋別市民の一般人で普段は観光、行政とは全く関係ない仕事である。正体は最高機密で、もしばれてしまったときには引退を考えている。活動はみんなの笑

図 6-3 モンベモン



出所：NAVER まとめ

顔と北海道紋別市の地域活性化のためにガリンガーで市内を疾走しているので、行事やイベント、信号待ちの道路などで会えるかもしれない。写真は SNS などにはアップ可能であるため探してほしい」とコメントしている。

次に砕氷船士ガリヤーのプロフィールを紹介する。職業はローカルヒーロー、リアルライフヒーローで、モデルは、カニとガリンコ号Ⅱである。決めセリフは、熱き心で悪評を砕くで、必殺技は、アルキメディアン・スクリューパンチ、クリオネキックである。

砕氷船士ガリヤーには次のようなストーリーがある。カニの筋繊維を編んだ『カニ筋スーツ』と鴻之舞金山で取れた特殊な金属『ガリメタル』の装甲のガリヤーシステムを身にまとい、バイクや車、ガリンコ号Ⅱで出航する。

流氷などをモチーフにした敵の組織は、悪氷によって悪の心を増幅、怪人化して紋別の平和を脅かす。ガリヤーの必殺技『アルキメディアン・スクリューパンチ』は悪氷だけを砕き、怪人や敵の組織と仲良くしたり更生することを目的に戦う。

コンセプトは、「昔見たヒーローに憧れた紋別市民の一般人が、ガリンコ号Ⅱが就航 20 周年を迎える 2017 年、ついに変身する。ガリヤープロジェクトが伝えたいことは、町を元気にしたいという『紋別の地域活性化』、みんなを笑顔にしたいという『笑顔の連鎖で世界平和』。2 つの野望を掲げ、カッコいいヒーローを目指して日々活動が続けている。」となっている。

図 6-4 砕氷船士ガリヤー



出所：砕氷戦士ガリヤー公式 HP

6.3 ゼミ旅行で行った先のゆるキャラ

6.3.1 スノーベリーちゃん（比布町）

比布町のゆるキャラである「スノーベリーちゃん」は「いちごちゃん」とも呼ばれ、『いちごがスキーを滑っている』というそのまんまの姿をしている。もう 10 年以上前に誕生し、しばらくは頭の大きさからどこにも連れて行けなかったが、役場にいちごちゃんも乗れる車が導入されてからは、比布町の PR のために、あちこちで活動をしている。普段は、スキー場で、スキー教室やスキー学校、イベント時などにも、スキーを楽しんでいるが、いちごの PR の時には、町外にも出て比布町の PR に努めている。

図 6-5 スノーベリーちゃん



出所：比布町公式 HP

6.3.2 ピコロ（滝上町）

童話村のまちづくりのさまざまな舞台に登場してくるのが、「ピコロ」である。1991 年に全国に公募し選ばれたキャラクターで、「芝桜をひと振りすると、たちまち願いを叶える“芝桜の妖精”」である。しかし当時は名前がなく、翌年に町民公募で「ピコロ」と決定した。「楽器のピッコロのように、素敵な音楽の流れる楽しい町になるように」と願いがこめられている。

ピコロは、町内や観光イベントに参加し、滝上町の芝桜を PR している。

図 6-6 ピコロ



出所：ゆるキャラ HP

6.3.3 かみっきー（上川町）

かみっきーは、上川町のマスコットキャラクターであり、上川町の開拓 120 周年の 2014 年に誕生した。町のシンボル「エスポワールの鐘」の近くに出没するヒグマの男の子である。頭には、帽子ではなく鐘をかぶっていて、とても恥ずかしがりやで鐘の中に隠れてしまう。町で暮らしている人や上川町に遊びに来た人が、元気になれるよう応援しながら、上川町の PR 活動をしている。

プロフィールは、誕生日が 8 月 10 日で、性格はのんびり屋でひかえ目である。好きな食べものは上川ラーメン、ニジマスのお刺しで、趣味は温泉めぐり（層雲峡温泉など大雪山周辺の温泉がお気に入り）、自然風景のスケッチ（大雪山や旭ヶ丘の風景画が得意）である。口癖は、語尾に「ぼわ〜る」、「ぼわん」をつけることで「まちのみんなが大好きでぼわ〜る」、「かみかわの〇〇を紹介するぼわん」などといった話し方をする。

図 6-7 かみっきー



出所：上川町公式 HP

6.4 紋太グッズ紹介

紋別市の公式キャラクターである紋太は紋別市で大変人気があり、そのため紋別市の観光地のいたるところで見つけることができる。どこに紋太がでてくるのか探すのも一つの楽しみである。また、紋別市にはたくさんの紋太グッズがある。そこで数ある紋太グッズの中から選び、紹介する。

表 6-1 紋太グッズ

紋太タオル (810 円)	紋太キーチェーン (540 円)	紋太 T シャツ (2050 円)
		
トートバック (1200 円)	缶バッジ(200 円)	付箋 (280 円)
		
ピンバッジ(300 円)	ステッカー (100 円)	クリアファイル (280 円)
		

クリアファイル (280 円)	ぬいぐるみ大 (2160 円)	ぬいぐるみ小 (780 円)
		
マグカップ (800 円)	ボールペン (280 円)	コルクコースター (380 円)
		

紋別市観光振興公社観光事業課 HP より筆者作成

参照 HP

- Kawaii@Hokkaidou

<https://kawaii.hokkaido.jp/character/pikoro/>

- ・コトバンク

<https://kotobank.jp/wor> ゆるキャラグランプリ-190378#E7.9F.A5.E6.81.B5.E8.94.B5mini

- ・砕氷戦士ガリヤー公式 HP

<https://monbetu.wixsite.com/garrier-project>

- ・全国ゆるキャラ事典

<http://promisingstarshotel.com/granprix/>

- ・NAVER まとめ

<https://matome.naver.jp/odai/2148470451691187301/2148473131011273603>

- ・北海道比布町公式HP

www.town.pippu.hokkaido.jp/cms/section/sangyou/i9kb6d00000031qp.html

- ・北海道上川町公式HP

www.town.hokkaido-kamikawa.lg.jp/chs8120000000d59.html

- ・紋別市観光振興公社観光事業課

<http://mombetsu.net/monta>

- ・ゆるキャラ

<http://yuru-character.com/archives/30837350.html>

- ・ゆるキャラグランプリ

<http://www.yurugp.jp/vote/detail.php?id=00001144>